

1. 略歴

1991年4月	東京大学教養学部文科三類	入学
1993年4月	東京大学文学部印度哲学専修課程	進学
1995年3月	同上	卒業
1995年4月	東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻修士課程	入学
1998年3月	同上	修了
1998年4月	東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻博士課程	進学
2002年3月	同上	単位取得退学
2002年4月	東京大学大学院人文社会系研究科	助手（～2005年3月）
2004年9月	博士（文学）（東京大学）	
2005年4月	東京大学大学院人文社会系研究科	学術研究支援員（～2005年9月）
2005年10月	日本学術振興会海外特別研究員（ハンプルク大学アジア・アフリカ研究所）	（～2007年9月）
2007年10月	東京大学大学院人文社会系研究科	学術研究支援員（～2008年3月）
2008年4月	東京大学大学院人文社会系研究科	特任研究員（～2012年3月）
2012年4月	筑波大学大学院人文社会科学研究科	助教（～2013年3月）
2013年4月	東京大学大学院人文社会系研究科	特任研究員（～2017年3月）
2017年4月	東京大学大学院人文社会系研究科	准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 単著

『『菩薩地』「真実義品」から「撰決択分中菩薩地」への思想展開 — vastu 概念を中心として — 』, *Bibliotheca Indologica et Buddhologica* 12, 東京：山喜房仏書林, 2005, 230pp.

(2) 共著

『『俱舍論』を中心とした五位七十五法の定義的用例集 — 仏教用語の用例集（バウツダコーシャ）および現代基準訳語集1 — 』, *Bibliotheca Indologica et Buddhologica* 14, 東京：山喜房仏書林, 2011, 222pp.

『唯識と瑜伽行』シリーズ大乗仏教第7巻（第3章「初期瑜伽行派の思想 — 『瑜伽師地論』を中心に — 」担当）, 東京：春秋社, 2012, pp. 73-109, 総ページ数 iv+290pp.

『瑜伽行派の五位百法 — 仏教用語の現代基準訳語集および定義的用例集 — バウツダコーシャ II』, *Bibliotheca Indologica et Buddhologica* 16, 東京：山喜房仏書林, 2014, 318pp.

(3) 論文

[単著] 『『菩薩地』と『二万五千頌般若』における nir-/anabhiḷāpyatā』『印度学仏教学研究』47-2, 1999, pp. (116)-(118).

[単著] 『『大集経』に見られる anabhiḷāpya の用例と『菩薩地』の思想形成の関連について』『インド哲学仏教学研究』6, 1999, pp. 31-45.

[単著] 『『二万五千頌般若』における「空」「不可得」「不可説』』『インド哲学仏教学研究』7, 2000, pp. 41-53.

[単著] “Vastu in the *Tatvārtha* Section of the *Bodhisattvabhūmi* and the *Viniścaya-saṃgrahaṇī*,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (『印度学仏教学研究』) 49-2, 2001, pp. (39)-(41).

[単著] 『『菩薩地』における「分別 (vikalpa) から生じる vastu の解釈の展開について』』『仏教文化研究論集』5, 2001, pp. 51-73.

[単著] 『『解深密経』と五事説の関連について』『仏教学』44, 2002, pp. (71)-(89).

[単著] 『初期瑜伽行派における名称とその対象に関する三つの論理』『印度学仏教学研究』51-2, 2003, pp. (152)-(156).

[単著] 『四尋思・四如實智に見られる思想展開 — 『菩薩地』から『大乘莊嚴経論』を中心に — 』『仏教文化研究論集』9, 2005, pp. 24-44.

[単著] “A Premise of the *Trilakṣaṇa* Theory in the *Samdhinirmocana-sūtra*,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (『印度学仏教学研究』) 54-3, 2006, pp. (85)-(92).

[単著] “Why was the *Māṃṣyakasūtra* cited in the *Bodhisattvabhūmi*? : An example of a shared scripture in the *abhidharma* and *Yogācāra* philosophy,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* (『印度学仏教学研究』) 57-3, 2009, pp. (87)-(93).

- [単著]「XMLによる仏教重要語彙定義集の作成と課題」『情報処理学会研究報告』(人文科学とコンピュータ研究会 第86回研究発表会報告書)2010. (<http://id.nii.ac.jp/1001/00069454/> からダウンロード可) pp.1-5.
- [単著]「TEI P5を利用した仏教用語集作成に関する諸問題」『人文工学の可能性～異分野融合による「実質化」の方法～』(人文科学とコンピュータシンポジウム論文集)2010, pp. 125-130.
- [単著]「大乘仏教のヴァルナ観に関する一考察」『南アジア研究』23, 2011, pp. 31-50.
- [単著]“Observation of the Body in the *Bodhisattvabhūmi* : Significance of the *kāyānupaśyanā* in the Early Yogācāra Philosophy,” *Journal of Indian and Buddhist Studies*(『印度学仏教学研究』)61-3, 2013, pp. (139)-(145).
- [単著]“The Premise of Vastu in the Manobhūmi,” *The Foundation for Yoga Practitioners, The Buddhist Yogācārabhūmi Treatise and Its Adaptation in India, East Asia, and Tibet*, ed. by Ulrich Timme Kragh, 2013, pp. 564-577.
- [単著]「『瑜伽師地論』「摂事分」の四念住に関する一考察 — 作意から生じる法とは何か — 」『伊藤瑞穂博士古稀記念論文集 法華仏教と関係諸文化の研究』, 東京:山喜房仏書林, 2013, pp. 737-746.
- [単著]「論理構造と物理構造が混在するテキストのXMLによるマークアップに関する考察」『情報処理学会研究報告』2013-CH-98, no.6. (<http://id.nii.ac.jp/1001/00091778/>からダウンロード可)
- [単著]「求那跋陀羅譯『相續解脫經』と『第一義五相略』—『解深密經』の部分譯に関する疑問 — 」『東方學』127, 2014, pp. 18-34.
- [単著]「『撰大乘論』におけるブツダの威徳名号に関する一考察 — 第一名号 *Suvisuddhabuddhiḥ* の変遷を中心に — 」『奥田聖應先生頌寿記念インド学仏教学研究論集』, 東京:佼成出版, 2014, pp. 793-805.
- [共著]「*śraddhā/saddhā* の訳語をめぐって」(第3節「瑜伽行派文献の *śraddhā*」pp.27-36を担当), 『仏教文化研究論集』17, 2014, pp. 1-64.
- [単著]「『解深密經』の結文に関する考察 — 大乘經典編纂の痕跡という観点から — 」『インド哲学仏教学研究』21, 2014, pp. 65-80.
- [単著]「『菩薩地』における菩薩藏 (*bodhisattvapiṭaka*) の位置づけ」『インド哲学仏教学研究』24, 2016 (印刷中).
- (4) 口頭発表 (国際学会・国際シンポジウム)
- [単]“On the Meaning and Self-recognition of the So-called ‘Yogācāra’ School,” the XVth Congress of the International Association of Buddhist Studies, Emory University at Atlanta, USA, 2008年6月27日.
- [単]“Philological Analysis on the Introductory Chapter of the *Samdhinimocana-sūtra*,” the XVIIth Congress of the International Association of Buddhist Studies, Dharma Drum Buddhist College in Jinshan, Taiwan, 2011年6月25日.
- [単][講演]「「バウツダコーシャ」—瑜伽行派の術語集作成に関して—」(金剛大学校-東京大学共同セミナー), 金剛大学校, 韓国, 2012年2月18日.
- [単][集中ワークショップ]「『菩薩地』研究の課題 — 唯識以前の瑜伽行派思想 — 」(金剛大学校-東京大学共同セミナー), 金剛大学校, 韓国, 2012年2月19日.
- [単]“A Consideration on Marking up the *Madhyāntavibhāṅgāṭikā* by Using TEI P5: A Complicated Case of a Critical Edition Including Extensive Reconstruction,” Japanese Association for Digital Humanities 2013, at Ritsumeikan University, 2013年9月20日.
- [共]パネル「大乘經典に見られる社会」(代表:高橋晃一), 国際シンポジウム「東アジア仏教の形成と展開」(主催:鶴見大学仏教文化研究所・台湾仏光大学仏教研究センター), 鶴見大学会館メインホール, 2015年7月4日.
- (5) 書評、研究成果報告書、その他
- [書評]
- [単] Robert Kritzer, *Vasubandhu and the Yogācārabhūmi, Yogācāra Elements in the Abhidharmakośabhāṣya* (Studia Philologica Buddhica, Monograph Series XVIII, Tokyo:International Institute for the Buddhist Studies, 2005), *The Eastern Buddhist (New Series)* Vol.XXXVI, Nos.1&2, 2004, pp. 236-242.
- [単] Lambert Schmithausen, *On the Problem of the External World in the Ch’eng wei shih lun* (Studia Philologica Buddhica Occasional Paper Series XIII, Tokyo: International Institute for the Buddhist Studies, 2005), *International Journal of South Asian Studies* Vol.1, 2008, pp. 173-177.
- [報告など]
- [写本解題][単]「*Śatasāhasrikā Prajñāpāramitā*『十万頌般若經』」『東京大学所蔵仏教関係貴重書展 — 展示資料目録 — 』(末木文美士・斎藤明編) 東京大学附属図書館, 2001年, p. 1.
- [研究紀行記][単]「ウツジャイン紀行 — 訳経僧パラマールタ(真諦)の故地を訪ねる — 」『仏教文化』第48号, 2009年, pp. 108-126.

[年表作成] [単] 奈良康明・下田正弘編『新アジア仏教史』第1巻「インドI 仏教出現の背景」, pp.368-387, 第2巻「インドII 仏教の形成と展開」, pp.384-405, 第3巻「インドIII 仏典からみた仏教世界」, pp.364-382, 佼成出版社, 2010の各巻の年表作成担当.

[事典項目]「瑜伽行と唯識思想」(井上ウィマラ・葛西賢太・加藤博巳編『仏教心理学キーワード事典』, 春秋社, 2012).

[事典項目]「イエシエーデ」「ウーパ・ロセル・サンギューブム」「コラムパ・ソナム・センゲ」「パクパ・ロトゥー・ギエルツェン」「シムカンゴンマ (活仏)」「シャーキヤ・チョクデン」「ジャムヤン・シェーパ」「ターラナータ」「チューーキ・タクパ」「チョナンパ・トゥクジェ・ツンドゥー」「ドゥルプパ・シェラプ・ゲルツェン」「ティデ・ソソツォエン王」「テンパ・ツェリン (デルゲ王)」「ナーローパ」「ミパム・ギャンツォ」など15項目 (岩波書店辞典編集部編『岩波世界人名大辞典』, 岩波書店, 2013).

[成果報告書] [単]「印順の「人間佛教要略」における菩薩観に関する小考」『2013-2014年度鶴見大学仏教文化研究所 日台共同研究プロジェクト研究成果報告書』(代表: 木村清孝), 2014年, pp.102-107.

[成果報告書] [単]「『菩薩地』における布施に関する覚書」『2014-2015年度鶴見大学仏教文化研究所 日台共同研究プロジェクト 研究成果報告書』(代表: 木村清孝), 2016年, pp.71-76.

[その他]

「日台共同研究プロジェクト」(佛光大学仏教研究中心〔台湾〕から鶴見大学への受託研究) 研究期間: 2013年10月～2015年9月 研究課題: 近現代における仏教の展開～人間仏教の歴史的位置～研究分野: 印度哲学・仏教学 役割: 分担者 (研究代表者、木村清孝〔鶴見大学前学長〕) 研究機関: 東京大学.

(6) 受賞

日本印度学仏教学会賞 (2009年9月)

Daiwa Foundation Bursaries for Digital Humanities 2010 (国際人文情報学会ダイワ基金賞) (2010年7月)

東方学会賞 (2014年11月)

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

足利工業大学 (2004年9月～2005年3月)

東京農業大学 (2007年10月～現在)

鶴見大学短期大学部 (2011年4月～現在)

鶴見大学 (2014年4月～2014年9月)

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 (2015年9月～2017年3月)

(2) 学会

日本印度学仏教学会 (1998年4月～現在)

仏教思想学会 (2002年4月～現在)

東方学会 (2003年4月～現在)

International Association of Buddhist Studies (2007年10月～現在)

日本南アジア学会 (2010年4月～現在)

Japanese Association for Digital Humanities (2013年5月～現在)

日本チベット学会 (2016年3月～現在)